



1 9 6 3 第 1 号
明大自動車技術研究部

神保町名物 大衆値段
大小宴会予約承ります

か ん だ つ 子

神田 らんぶる隣

TEL (291)0246・9180

純 喫 茶

ボ ル ガ

TEL (201)0071

丸善石油株式会社特納店

ガス・スタンド

駿河台給油所

(明大本館横)

東京都千代田区神田小川町3の20

TEL (201)9568

「 卷 頭 言 」

幹事長 - 淺賀 誠

副事長 - 伊藤 昭一

わが自動車技術研究部も、創立はや十周年になつた。

丁度一年前、大いに熱意をもつて幹事長という役を引受けたが、何かと責任という、重荷に押しつぶされ、一向に自分の念願であつた「十周年だ、何か一ちよやかにしてやろう」の意欲も時がたつにつれて、消え去ろうとしている。しかし、それではあまりにも無責任過ぎる様だ。といつても、今更それ程大きな事を、しでかそうとして、とても無理である。そんな事を思つている時、「部誌」を作つてみてはどうか」という話が入つた。どんなものが出来るか、不安であつたが、どうせやるならいいものを作つて見ようと、一、二年の編集員、数名を指名して作つて見た、大学祭で忙しい折、毎日遅くまで部室に残り、苦勞のかいあつてやつとこのような部誌が、一応出来あがつた。

目 次

まえがき	浅 賀 誠 伊 藤 昭 一
------------	------------------

特集 // 生田移転

生田移転にあつて	幹事長 浅 賀 誠 (1)
生田校舎を見て	編集部(長 島 勇) (1)
生 田 文 部	本部役員 松 本 忠 雄 (43)
通 転 練 習	山 本 建 夫 (4)
通転免許取得	川 下 茂 清 (5)
夏季合宿感想文	一寸木 和 彦 (7)
夏季合宿に参加して	竹 花 千 代 (8)
生と死の谷間	沼 田 洋 子 (8)
富津の思い出	和 田 恭 幸 (9)
合宿における車の整備	近 田 米 生 (11)
小説「ほゝえみ」	古 橋 智 昭 (12)
恋人はジュースがお好き	2年(一部員) (13)
3年夏季研究	田 保 栄 三 (15)
カタログ「日産自動車」	山 岸 義 敏 (17)
工 場 見 学	高 甲 弘 光 (19)
ボンゴッドライブ記	高 箕 輪 (20)
アルバイト「ベレル磨き」	杉 浦 恒 雄 (21)
陸 送	山 野 隆 男 (26)
永遠の恋人	須 山 岳 郎 (27)
ドライブ・コース	栗 原 猛 (28)
東 北 旅 行	高 桑 勝 (31)
自動車雑感	市 川 淳 郎 (33)
事故における注意	上 村 昇 (35)
学 生 哲 学	辻 野 進 (36)
温 故 知 新	福 水 大 陸 (37)
題 無	小 林 知 (38)
駿台寮に寄せて	柴 野 三 朗 (40)
アンケート報告	木 村 俊 一 (41)
	(早稲田) (44)

『生田移転にあたって』

幹事長 淺 賀 誠

いよいよ我がクラブ、いや、そのクラブを構成しているメンバーである工学部の生田移転が来年に迫つて来た。話によると新校舎建築のための基礎打ち工事が始まり、来年までには長さ200メートルという大校舎が出来上がるということ。そうなることと来年の新生及び今の1年生が移転ということになる。

10周年を迎えて、やつと充実して来た我がクラブにとつて重大な関門である。さしあたり来年より、理科連及びそれに所属する各クラブは生田に支部を設けて、総て工学部が移り終わるまで一応、主権は本校の方に残して置くようであるが、その間の活動が非常に難しい課題である。

この間、いかにしてクラブを運営していくかは、まだまだ考えなければならぬ事柄が沢山ある。これらの課題を一つ一つ解いていくには、本校に残り来年は幹部になる2年生、或いは今度、生田に行つて大いに活動してもらい1年生に、今のはやり言葉で言うなら、「大いにハツスルしてもらいたい。」

こんな訳で今の1、2年生は今年以上に大変だと思う。この関門を打ち破つて、もつともつと、自動車技術研究部を盛り上げてくれることを心から望む。

生田校舎をみて

編 集 部

「今井さん、自動車で生田へ行きませんか。」「なぜ?」「今度、部誌を発行するでしよ。記事が必要なんですよ。」「何を載せるンダイ?。」「将来の本部と生田支部の関係等は幹事長や松本さんに意見を聞く予定ですから生田つて所はどんなか、校舎はどこにどれ位のが建つ予定で、その工事がどのくらい進んでいるかを知りたい

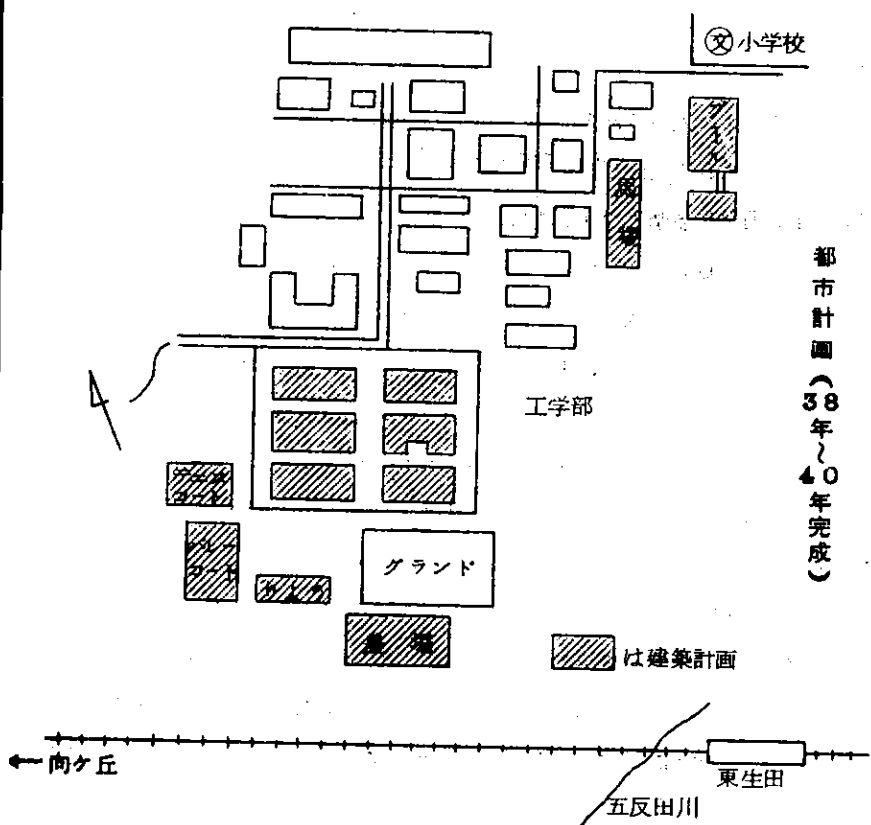
のです。」 「幹事長に聞いたか」「2年生に連れていっただけであつて」「……そうか。 それじゃ、3時半まで待て。」

ある土曜の部会の終つた後、幹事長以下3年生数名をリーダーに2年生10余名、1年生56人でグレースターのステアリング関係の分解 — ビンが抜けないのでかんのと相手こずつていた —、ブルーマスターのサイドブレーキ修理の作業をしている今井さん、木村さんを誘拐(?)して、それに川下君と計4名で11号館を出たのが4時過ぎ、案の定、生田に到着したのが6時過ぎで外は真暗。街道から入口が分からず、人に聞いて入つた所が今通り越してきた東生田からの裏門に至るコースだつた。それに途中の山路で深みにはまる等、世田谷からの凸凹道と共に、終盤は苦しい旅だつた。 それだけに、山の上から見る夜景のきれいさが身にしみ、学園都市にはふさわしい静かな環境であることは想像出来た。 しかし、かんじんの校舎の全容が明からず、守衛所でも探し出して詳細を知ろうとしたが、それも勝手に分らず、あきらめざるを得なかつた。 それでも第1次視察の収穫をあえて上げるなら、プールがあること、農学部では馬術が盛んらしいこと、短い平屋建てが多い中に全長約200m4階の農学部教室があること — 工学部もこの位のを築造するらしい —。 向ヶ丘駅から正門まで店がないこと、それに川下君が運転をさせてもらつたぐらいである。

第2次視察団 — 竹内さん、川下君、山本君計4名 — は今度こそはと、はやめに出発した。 第1次とは逆に出だしに外苑付近で国際スポーツのための交通規制に会い、5~8回の信号待ちを余儀なくされた。 そのあとは生田まで何の障害もなく表門から堂々、入学。 例の凸凹道は2度目でもあり、第1次の時と違つて車もつまつてなかつたので、苦痛よりむしろ快適さを覚えた。

あつた、あつた。 表門までの箱根を思わせる山道、前来た時、駅まで乗せてやつた7、8人の技師が働いている現場事務所、飯場、それに本命の建築現場。 教室になる第1棟の基礎打ちだ。 来春3月までに完成し、現1年が2年の前期の時、移るらしい。 第2棟は大教室(講堂)、第3棟教授室、第4棟が実験室となる計画で、我ら1年が3年になるまでに全校舎を完成させるという。

生田山は田舎だと言われて来たが、確かに、まわりは畑、梨園 — なしもぎが盛かん — で緑が多い。それだけに景色が良く、空気は澄み、青空がいつでも見られる。隣近所は明大を中心に小中学校、高校（私立もあつた）それに専修大の生田校舎と名所と共に学園都市である。また地元の川崎市では田園都市建設の計画があるらしい。将来、桜の並木道を介して農工両学部 of 200 m校舎が立ちぶ風は内外の名物となるであろう。この未来図は文末に記すから、これを見て大いに未来を語り合つてもらいたい。なぜなら、本校での10年間に築き上げた工学部の伝統を生田にどう生かすかとともに、工学部独自の新生田スピリットを我々の手で確立しなければならない自覚を各自、持たねばならぬ時期でなからうかと思うからである。（長島記）



都市計画（38年〜40年完成）

§ 運 転 練 習

1 年 山 本 建 夫

僕が最初に自動車を運転したのは、明大に入学して1ヶ月目ぐらいと思う。高校時代に免許を取りたいと思つたが、とても2万円という金は僕には融通出来ず、免許を取りたくても取れなかつた。又僕がそれまで運転したのと言えば自転車ぐらいで、タクシーに乗つて運転手の手足を見て、良くまああんなに器用に動くものだと感心したほどだつた。僕にはとてもあんな事が出来る自信がなかつた。しかし大学入試に合格した3月にアルバイトで運転手の助手をした時にだいぶ運転についての知識を得ると自分にも運転する事が出来そうに思われた。そうなると1日も早く免許を取つて自分で車を運転してみたくなつた。折よく明大のクラブ活動の中に『自動車部』『自動車技術研究部』という自動車に関するクラブがあつたので、これ幸いと、どちらかのクラブに入ろうと検討した結果僕は機械科専攻であるので自動車技術研究部を選んだ。これが僕がこのクラブに入部した経緯である。

入部して1ヶ月目に多摩川の練習所で、生まれて初めての運転に胸がわくわくしていました。今まで難しいと思つていた運転が以外に出来るので自分自身驚いたほどです。それでちよつと得意になつたのが悪かつた。たつた1回の練習だけなのにクラブの友達と4人で車を借りて、1人が免許を持つていたのでそれに運転をさせて青山の方で運転練習を始めた。1周300メートルぐらいの住宅街の中を乗り回している内に1人が電柱に車の前の右側ライトをぶつつけペンヤンコにしてしまい運転していた友達は青くなるし僕もどうしてよいかわからずあの時は本当に困つてしまつた。それから半月ぐらいはおとなしくしていたが又友達4人で1時間ぐらい車を借してほしいと3年生に頼んで車を借り6時間も学校に帰つてこなかつたので3年生はカンカンになりクラブに帰ると『東莫』にいるから帰つたら自動車のカギを持つてこいという事であつたが1人はさきに帰つてしまつて部員は僕1人であるので心細くてしょうがなかつた。『東莫』に行くと3年生はマージャンをしていて4人でめちやくちや

に文句を言われた。その文句は『又、山本か』これと言われると、どうしようもない。それから何かすると『又山本か』と言われそうでびくびくしていた。

7月に入り合宿で練習をしてだいぶ運転に自信がついたので夏休み中に免許を取ろうと思つたが、バイトや遊びで暇がなく、とうとう免許は休み中に取れず10月3日に第1回の試験を小金井で受けたが見事に不合格だが、教習所に6回しか行かなかつたので仕方ないと思つた。10月17日に技能試験があと1度出来るのでその時に頑張る積りであつたが又見事に不合格、2回目は自身があつたのだが僕はすぐ上つてしまうので教習所でやるように運転出来ず免許は取れなかつた。これではつくり来て今は免許を取るのが面倒になつて来たし金も3000円ほど使つたのでどうしようかと今は考え中である。11月8日には試験所で初めからの試験があるのだが、今はやる気にならない。

～ 運 転 免 許 取 得 ～

1 年 川 下 茂 清

僕が今年の4月に自技研に入つた時は、正直言つて自動車についての知識は、ほとんど持ち合わせてなかつた。ただ、免許が容易に取れそうだ、という事に魅力を感じて入部した。第1回の多摩川での練習の時、車はずいとい蛇が見ていたら「変な外人」なんて言われたかもしれない。まあ、動いている自動車のハンドルをさわつた事のない人間だから、仕方がないでしょ。

多摩川で2回練習に行つたら直ぐ合宿になつてしまつた。合宿で一通りの事はやつて見た。路上での運転は総合的練習にもなり、スリルがあつた。たゞ一つ気になつたのは、運転技術の進歩のつけ方が人によつて違つていた事だ。合宿が終ると直ぐアルバイトを始め、免許の申請も出した。適性検査に行つて驚いたのは、人が多かつた事である。シーズン中の上野駅の込み方には及ばないにはしても、まつたぐ、

すごい。列の終りがどこにあるのかさえ、わからない位だつた。アルバイトをやりながら、近くの高田馬場の未公認の教習所に通つた。そこの教習所のぼろいことを覆いたくなる位だ。（少し大袈裟だが。）コースは一方通行で、車は普通と軽自動車だけ。もつと知りたかつたら、実際に見に行つた方が早いでしょう。でも、見に行つた時、気をつけないと、教習員の中には怒鳴る奴がいます。僕なんか、その教習員に教えられつた時、頭にきちやつた。第1回目の試験で学科は、学生の本分を発揮してどうやら受つた。実地の方は、まづたくお話にならない。恥ずかしい限りだが、一応、その経過を述べてみよう。まず、カーブでセンターライン・オーバー。左折の時センターライン・オーバー。（センターライン・オーバーは大幅減点される。）坂道の減速でセカンドに入らず空ぶかし。そして不要の停止。クラックは調子よく通つて、S型に乗りあげそのまま驚進。（これも切り返しをやらないと、大きく減点。）車庫入れは、2度切り返しをやつて、また。いつもの様にうまく入らず、本当に恥ずかしい限りです。試験場の車庫は教習所の車庫とは少し形が違つていた。保留になつて、又七百円も払わされた。保留期間の2週間に10教程やつて、保留試験を受けた。今度は、左折の時、センターライン・オーバーとクラックに乗り上げ、切り返しをして落された。少しは見込みがあると思つて発表を待つていたが、現実は厳しかつた。後はお話するに耐えない。一週間程して、又こりずに申請書を出しに行つた。試験日がちようど、学校の試験後の休みに当つた。いい調子だ。

前の2回の試験コースは同じであつたが、今度は全く異なつていた。東京での試験のバックは車庫入れだけと聞かされていたが、今回はロータリーでのバックを使つた方向転換をやらされた。三度目の正直で今度は合格。

ああ、よかつた。

夏期合宿感想文 ②

2年 一寸木 和彦

例年の様に、部員の運転技術の習得と親睦を図るために7月3日より10日まで松崎に別れた千葉県富津明大訓練所で、2年生18名、1年生43名と今年は特に食糧2名の参加を得て合宿を行つた。大世帯なので1、2年生をそれぞれ3班に分けて、早朝と午前と午後交互に運転練習、早朝講義、エンジン分解等を行なつた。毎日4時に起床して、時には1年生に起された事もあつたが、海岸まで1キロ程走るが、冷たい潮風に當つて眠い人も目が覚めてしまい、そこで体操を行い戻つて来る。早朝講義は、法令と構造を解説して、問題を1人ずつ当てて行つたが、変つた問題や難かしい問題が起つて来る。例えば駆動車は何自動車に入るか、とか、トルコンとは何かという風に。8時に朝食なので、早朝練習をして来た時は、食事が物足りないくらいで、とてもおいしい。午前中は、いろいろなエンジンや変速機等の分解を行い、2年生の説明によつて理解を深めた。組み立ての時にになると、ネジ等の部品がどこかへ行つてしまつたりした。実際に分解してみると、自動車というものが、広い科学の分野に渡つている事が良くわかる。午後は昼寝の後で、希望者は水泳を行つたが、あいにく風の強い日や曇りの日が多かつたため、10分も泳ぐ事ができなかつた。速浅で、三浦半島や東京湾を航行する汽船が見えた。運転練習には、4台で行い1人50分ほど練習でき、練習カードに進み具合を見るために評価をつけるが、人によつて違ふ事があつた。砂地なので、エンストが多く、その結果クラッチの上げが上手になり、安全運転をするよつになつた。またクランクやS字等を低速で走るので、マスターはすぐにオーバーヒート気味になるが、屢々ラジエターの水を換え、休めながら行つた。すでに免許を持つている人は、ノークラッチのビッグで、人のいない半島の先へ行つた。富士吉田のように、広い運動場がないので、細かい事が十分行えなかつたのは残念である。車が古いので故障を時々したが、整備係が夜遅くまでかかつて直してくれ、練習は順調に進んだが、自由時間が多かつたので、ソフト

や遊び等の方の親睦もまたいつそり盛んであつた。夜の反省会では、1、2年共々の苦情があつたが、お互いに納得して、翌日より、変える所は変更して和やかにムーズに過ぎた。朝が早いので9時の消燈の前に寝てしまう人もいほどであつた。3年生や先輩の来訪が、この合宿をいつそり引き締めて楽しいものとしてくれた。9日の最後の夜コンパでは、ビールで乾杯した後で、外へ出てキャンプファイアーの回りに集つて合唱し、1年生の泥 掬まで飛び出して、おおいに青春のエネルギーを発散させて、最後に2年生を胴上げて終つたが、室に入つてもなお遅くまで合唱した。1週間を通じて、団体生活の中で、自分がいかにみんなと同調していかなければならないかという教訓をみんな得ただろう。最後に帰途で、事故を起したことは2年生として真に残念な事である。

夏季合宿に参加して

文学部3年 竹花千代
沼田洋子

ある秋の日の午後、ある喫茶店で、2年生に部誌をだすから入部の動機とか、合宿の思い出について書いてくれと頼まれ、文学部とはいえ、そういうものに縁のなかつた私達はほとんど困りました。クラブ員といつても、ほんの申しわけ程度しか顔を出さず、入部の動機も単純でした。運動神経が鈍く自動車にはほど速いという感じの私達でしたが、あるきつかけで自動車運転の面白さを知り、工学部系の自動車部とも知らずに入つたのです。が、やはり未知のサークル活動に途中(3年)で入つて皆どうまくやつていけるかしらという不安な気持と期待がありました。入部した以上は皆の中にとけ込み、一緒に活動したいと思つたのです。でも部室には溢れるほどの人で、気軽に入つていけないのです。女子がいないことも原因の一つですが……。部室の前まで来て何度か入りずらくて止めたこともありましたが、これでは入つた意味がない、こんな風ではいけないと思ひながらも段々とサークル活動から疎

になつてゆく気持ちに気づいた時、私達はいつそう止めてしまおうかとも考えたので、合宿があると聞いた時、前の状態から脱けさせるかも知れないという期待から、2年生が中心という合宿にあえて参加したのです。60余人もの男子の中で、選んだ2人ほんとうに心細い思いでした。それに今考えるとおかしいのですが指導者であつた2年生が、ばかに恐ろしいもののように見え前に出ると人一倍大きな私達の身体がちつちやくなる思いでした。午前4時起床で合宿の1日は始まりました。午前4時といえ私達にとっては真夜中も同じでした。最初のうちこそは切り切つて逃げもしましたが、2、3日すると起床という声に恐怖感さえ覚え、何度か合宿に参加したことを悔やんだことでしょうか。おかげで1週間規則正しい生活をしたことは大いに私達にとってはプラスになりました。運転の方も2年生の指導でどうにか動かせようになつたものの女子ということもあつて皆にいろいろと迷惑をかけてしまつたのではないかと思います。皆の中にとけ込むことと運転を覚えることしか考えず、機械的なことは何も知らずに終つてしまいました。もつといろいろなことを知りたくて参加した合宿でしたのに暇な時はついつい昼寝ですごしてしまいました。でも私達は私達なりに合宿の楽しさを味わいました。誰も通つていない早朝の路上運転の爽快さなんて合宿に参加しなければわからないことでもの。これだけでも私達はこのクラブに入つたかいがあると思つています。

— 完 —

☆
☆
☆ 生と死の谷間 ☆
☆

2年 和田 恭 幸

合宿中に起つた人命救助事件(?)について書け、ということだが、もうすでに何度も喋つた事でもあるし、今更ここで得意満面として書く必要もないと思う。しかし原稿用紙を5枚ももらつてしまつた以上、何か書かねばなるまいと思ひ、シブシブ

筆を取ることにした。

後で、よくよく考えてみれば、案外罪なことをしたのではないか、と思つている。死にたい、と言う人間を無理矢理助けてしまつたのだから、おそらく助けられた人間は、今頃大いに小生を恨んでいるに違いない、でも、あの時あの場面に直面した時、即ち、「死にたいヨー」と言われた時には、そんな事など考えもせず全く慌ててしまつた。先に行く様に言つた我部の車を、大声で呼んだが、竹花、沼田両女史には聞こえなかつたらしく、小生と自殺者を残して走り去つてしまつた。すつかり気が転倒した小生は、約100米程離れた所で、草刈をしていた人に、これ又大声で、「救急車を呼んで下さい！」と言うつもりが、余り慌てて、「消防車を呼んで下さい！」と怒鳴つてしまつた。救急車は消防署にあるものという先入観があつたためらしい。でも、草刈の人が、すぐ来てくれて事情も分つた為、幸い消防車も来なくて済んだが、この時程、人間というものは、いざという時に、実に、だらしくなつてしまうものだ、と感じた事は無い。

火事の時に、下らぬ物ばかり持ち出して、大切な物程焼いてしまひ、という話を聞いたことがあるが、これも、そういう非常時に対する、心構えの不足によるものと思ふ。

つい先日、ボンヤリと歩道を歩いていたら、急に横から小さな子供が、走り抜けて来た。子供といつても、2つか、3つの、まだ恐い物知らずの幼児である。その子供が、アツと言う間に歩道を走り抜けて、車道に飛び出したのである。危い！と感じたものの、あまりに一瞬の事で、思わず立止まつてしまつた。しかし、幸いにも自動車か急停車したのと、母親がすぐに後を追つて来たので、無事に済んだが、この時、もし小生が、素早くこの幼児が走り抜けるのを止めていたら、(もちろんそれだけの時間的余裕はあつたはずだが……)この幼児が、車道に飛び出すことはなかつたらう、と思ふ。幸いにして、何事もなかつたから、良かったものの、こういう突発的な事件に対する、平素の心構えというものが、いかに大切であるかを、はつきりと思ひ知らされたものである。

話は大いぶ脱線してしまつたが、結局この合宿中の経験から得たことは、そのいつた平素の心構えが大切だ、ということである。

今日の様に、交通戦争と言われる世の中において、特に自動車を運転する機会の多い我々は、尚更こういつた心構えが必要だと思ふ。

以上

富津の思い出

1年 近田米生

初夏の富津の太陽は、ふつくらと包む様な陽ざしで我々を迎えてくれた。合宿は高校時代、野球部に籍を置いた関係で別にどうということとはなかつたが、高校とは異なつた雰囲気であろうという期待をかすかに持つて乗り込んだ。我々の1日の行動は、午前、午後のそれぞれ運転練習、エンジン分解、法令を学び、夕食後にミーティングを行うのであつた。ある晩ミーティングの後、俺達のグループの悪友数人と寮を抜け出し、持参のイカ燻製を口にはおぼりながら見晴らし台に登ると富津の海岸の夜景は、点々と浮かぶ漁火、富津の街々の光、夜空にきらめく星、そして遠く近く時折光を放つ灯台、それは大変素晴らしい光の祭典であつた。それから悪友達は見晴らし台を後に、海岸の方へ足を向けた。渾に足を浸しながら歩くと、夜光虫がひかかつて大変美しく、まるで宝石の山の中を歩いているみたいであつた。寄せくる波が子守唄を歌い、夜の海辺の風がそつと俺達に話しかける。そんな夜の富津の海岸なのに俺達が真昼に飛んで来る時は、きまつて水は冷たく、我々を陸の河童にしてしまうのであつた。それでも海の好きな若者達は、ガタガタ震えながらも波間に沫をあげていた。果てしなく太平洋の波を打ち寄せながら続く富津の海岸、そこで戯れるという事は、都会の混雑中で学ぶ我々にはこういう時間が必要である事を痛感した。毎日の先輩の指導による運転練習によつて、腕も、めきめき上達し、合宿の目標であ

る免許獲得に自信を高めながら、合宿最後の晩に我が友等とキャンプファイアーに
き青春を発散させた。 ウイスキーを飲みながら、ワッショ、ワッショと赤々と夜
に映える火の 圍りを駆け回り、歌を唄い、先聲達を胴上げして騒いだ。 これらのこ
が学生生活のよき思い出となつて、私の心の奥底にいつまでも残るであろう……
と思ひながら翌朝富津明大寮を後にした。

合宿における車の整備

2年 古橋 智昭

夏期合宿に使用した車は全部で4台、すなわち、ルノー、ビュック1台づつ、マ
スター2台であつた。 早期11号館前に集合して出発したが、千葉を過ぎたあたりで
マスター-Bがストップ。 もう始まつたかと心配してみたがすぐなおつてほつとした
それ以後目的地富津までは何事もなく昼頃着いた。 マスター-A、ルノー、ビュッ
クはなかなか快調であつた。 2日目から練習が始まつたが、2、3日の間は何事もな
く過ぎた。 2年生の間ではマスター-Bがどうも人気になつた。 4日目頃ビュッ
クのバックギヤがきかなくなつた。 どうもギヤが欠けたらしい。 これでビュック
の練習は一時中止したが、後ほど前進だけで運転練習を始めた。 この頃マスター-B
がどうもオーバーヒートしがちになつた。 ウォーターポンプを調べたが異状なく、
ベルトの緩みも大した事がない。 弁間かしの緩みがひどく、がたがたしていたので
無手勝流で調整しておいた。 この頃又、マスターのラジエターの水がもれるようにな
つた。 一升瓶に水を入れて、いつも積んでいたため、蒸発してしまうのかもしれなかつた。 次にマ
スターのブレーキがきかなくなつた。 エヤ抜きを試みたのであるが大した事な
くよく調べた結果ホイールシリンダあたりから油がもつているのがわかり、分解した
結果シリンダが破損していた。 さつそく2年生が木更津まで部品を買いに行つたが、

ブレーキドラム付近のボンゴツを買つて帰つてきた。そこでシリンダをとりはずし、マスターのと6、7人で大騒ぎしてとりかえたのである。結果は良好であつた。

次に又、マスターであるが、さかんにバックファイヤを起した事があつた。悪い頭をしぼつてみんなで考えたが、バルブ間隔がおかしいのか、ガスが薄いのか、などと考えつく位であつた。そこでバルブ間隔をいじつてみたがたいしたことなく、今度は燃料ポンプなどを疑つて、いじつてみたのであるが、これ又、大したことがなかつた。仕方がないのでそのままにして置いたら、翌日、直つていたのである。誠にイヤな感じなマスターである。



ほ　　え　　み



2 年 一 部 員

「私はどう生きて行けば良いの？」

「片手の無い私よ、先生、清美の手」

「自動車よ、恐いわ、歩道を歩いていたのよ、先生……。恐いわ。」

バツと眼を覚ました佐竹満夫は顔に汗いっぱいの自分を見出した。あの金切声は確かに清美の声だつたが、……外には雨がしきりに降つていた。真暗い下宿の中で佐竹は黙然と雨の音を追つていた。確かに竹中清美の声だと思つていると目の前に涙を流したあの美しい清美のセーラー服姿がまざまざと映つた。そうだつたか、夢だつたのか、ほつと大きく息をついた。

佐竹は学生だつたが、今年の夏休みにアルバイトとしてT市の予備校で、来年高校受験する中学生の夏期講習の指導をした。真剣に聞く生徒に、佐竹はたじたとしたが一生涯懸命英語、数学を教えた。しかしそんな緊張をほぐすために時々冗談やら一寸とした話をする必要があつた。そんなある日、自分の大学の話を生徒からせがまれて、いろいろと話した。佐竹は自動車部に入つていたので特にその話しを多くし

た。友達と乗っていた時他の自動車とぶつかった話、合宿の話、その他いろいろ面白おかしく話した。そんな生徒の中に、とりわけ真剣にじつと自分をみつめて聞いている少女が居た。佐竹はその美しいが、しかし何か寂しい生徒を意識しないわけにはいかなかった。その少女が聞いていると言う事、しかも一生懸命に、彼は少し有頂天になつて話した。終りのベルが鳴り佐竹は満足した顔で終りの挨拶をした。1日の終りのお茶を一口飲んで、さて整理でもして帰ろうかと思つた時だつた。背後に人の気配を感じた。その気配は佐竹の真後ろに来て止つた。彼は後を振り返り向いた。そこには先程の少女が立つていた。両足をびたりと床に着け、手は……ああ……左手は真直ぐに下を向いているのであるが……、何としたことだ……右手は……。ぐつとつばを飲み込んで、彼は強い眼差しでじつと自分を見ている少女を直視出来ないままに「何か用事かい。」と聞いた。無言のままの少女の眼に大つぶの涙が光つた。彼女は始め右手を……右手を動かそうとしたが少し振れたのみだつた。そして左手で静かに頬まで伝わつた涙を拭つた。ただ見守るだけで何も言い出す事の出来ない佐竹に、少女はきりつとした声で「先生……私は……先生も気付いている事と思いますが、このように片腕がありません。先生は自動車が云々と言つて喜んでいますが、私の腕はこのように取られてしまつたんですよ。私は歩道を歩いてたんです。去年の冬……。恐ろしかつた。死にかつた。勉強なんて手に付かなかつた。先生も知つているようにテストの成績も悪い。就職しようとしてもどこで私を使つてくれるの。だから結局高校に行くしかない。先生私のような者と結婚してくれる人いないわ。」佐竹は返す言葉が無かつた。「先生私のような人を作らないで……。先生に責任を押しつけるなんて事を致しません。でも私のような人を作らないで欲しいの。私はこれからのこと考えると真暗です。でも強く生きたいんです。私を先生見守つて下さい。」佐竹は彼女の美について言おうとしたがやめた。そして「竹中さん、確か竹中清美さんだつたね。僕はきつと皆に運転は気を付けるよう言うよ。僕は君が強く生きて明るい人間となる事を願うよ」と言つた。少女はうなずいてわずかであるが微笑が彼女の頬の筋肉を伝わつた。

それからいろいろと面白い話しや馬鹿話しをした。少女の顔から暗さが抜け微笑が
見えた時佐竹は思い切つて、『清美さん今日の授業の話君には苦しかつたかも知れな
いが、僕は君一人に話したのではないよ。皆の緊張を取るために話しをしたんだ。
君は少し自分が腕の無い事により、当然他人より同情されるべきだと考えているよう
だね。いや、その気持が無くて少し他人に甘える気持というか、特権の様な物を
抱いているようだが、それは間違いだ。確かに君は苦しみに堪えてきた。その堪
えてきた事は他人でなく君自身なんだ。君はそれを基として強く生きなくてははいけ
ないよ。人間皆一人ぼつちだ。君の腕なんか君の美しい心でカバー出来るんだよ。』
『先生…私は間違つていました。いつしか卑屈な心となつていました。きつと
強く生き抜きます。』と言つて笑つた顔は隋れ隋れとしていたが、佐竹にはいじらし
い彼女に目頭が熱くなるのを感じた。すでに陽は西に傾き、曇り昼中の運動場に変
つてしつとりとした露を帯びた雑草が生き返つたように夕方の涼しい風を受けて靡い
ていた。夕陽が窓からさし入り少女の顔を照らしていた。やがて、佐竹はさよう
ならと言つて帰つて行く少女の後姿を見て、粒自分にも信じられないような大きな涙
をこぼした。

恋人はジューズがお好き

3年 田 保 栄 三

●コロナ購入

待望の免許も取れたが、現在とは違い部の車を使用することは困難であつたため、
中古車を買うことに決め、毎日車の展示場を回つた。ようやく手頃なトヨベツトコ
ロナにありついた。あまりばつとした物ではなかつたが、その時はその様な事は問
題ではなかつた。

●ダイナモに木材代用

乗り回すうちにダイナモがゆるんできた。

いくら締めてもゆるいので調べて見ると、ネジがバカになつている事がわかつた。ネジのバカは人間と同じでどうにもならないのでオネジに糸を巻きつけて使用したがそれでもだめなので、最後の手段として木材をダイナモとエンジンの間に打込んで走つてみたところが、これがなかなか調子よく売渡すまでこの状態で通した。

◎ラジエターはジュースが好き

この車は温度が上りエンストすると、ちよつとやそつとではエンジンがかからないと言う悪い癖に出くわしその上ラジエターがもり始めた。そこで、考えたあげくジュースボックスで200円無理してラジエターに飲ませると一発でかかり無事帰宅できた。それから一週間後、今度は交差点の真中でエンコ、この時は交通量も多くもたもたしていると、ちよつとパトカーが通りおまわり3人が御車のあと押し、ポリ公どうも御苦労さんでした。

10分位走つて今度は狭い交差点の2～3米前でまたもエンコ、道が細いので完全に麻痺状態。後の車を見ると、ヒルマンの新車に乗つたお娘さん、そこで、座ぶとんを間に入れて後から押しかけしてもらい別に魂胆はなかつたが、お礼を言うと思つたら彼女の車は、遙かなたにあり嬉しいやら残念やら……。

◎中央線と衝突?

吉祥寺駅近くの踏切、ここはよく混雑するので有名。すれ違い電車も通過して踏切が開き少し乗り入れた時、どうした事が悪い癖がでた。もたもたしているうちに電車が見えてきたので、とつさにセルモーターで脱出しようと思いつき8回位でやつと踏切を出ることができたが、電車もブレーキをかけたようだった。危機一発だったのが九死に一生を得た。ここで死んだら彼女に申し分けない。

◎ヒルマンに乗り変える

あの車ではいくつ命があつても足りないので、ヒルマンに買変えた。今度の車は程度もなかなかよく、2パノールキャブで出足はスポーツカーをみ、120キロは走るので全くごきげん。これといつた故障もない。ところが、忘れもしない4月

21日バイクと正面衝突こちらもセンターラインオーバーではあつたが、相手も制限
40キロを80キロでとばしていたので、5分5分だが、2ヶ月の重傷と後が面倒だ
つたが、検察庁では僕の人柄にはれて、(言わせてくれ)不起訴で罰金はもちろん免
許書にも何も書かない物わかりのよさ、全く泣けてくるね。それに待望のバイク
に乗ることができ、もう後は急救車と霊柩車に乗れば万事終り。

三年夏季研究

三年 山 岸 義 紘

今年は従来のオートバイ性能テストに代わつて自動車の排気ガス分析を行つた。
これは種々の運転状態(速度一定、加速、登坂など)に於ける排気ガスを採集して、
これを分析し排気ガスの主成分である(CO_2)、(CO)、 O_2 、 N_2 の体積パーセン
トを求め、エンジンの回転数、空燃比に対する種々の性能を検討する研究である。
この実験はまだ為された例がないそうで参考資料が全くなく、実験方法及びガス採集
方法など部長の岡教授から詳しく教えていただいた。次に、採集に使う車は従来の
ような当部のオンボロ車では実験のデーターとしては感心できない。そこで金17
万円也を奮発して、当部としては創立以来の極上車(?)80年型ルノーを買入した。
又、分析器(官部式ガス分析器)の使用法を熟工の下村先生から教えていただいたが、
これには熟練が要し、又実験の際の個人差が表われるので一人でやつた方が良いと言
われ、幹事長が代表して猛練習、パチンコと麻雀で鍛えた手先の器用さと持前の精神
力にものをいわせて、採集ビン約50本を全部一人でやりとげた。

7月のはじめは実験準備と分析練習。1,2年生の合宿終了後、車を改造、準備
完了なつたところでリハーサル。学校の周りをぐるぐる廻つてガス採集の実験。
タコメーター、マノメーターも異状なし。いよいよ本番。村山自動車テストコー
スで速度一定状態、及び加速状態に於けるガスを採集。ビンが少ないので採集と分

析を1日置きに行い4日間かかった。登坂時に於ける採集は勾配が一定で走行距離が約500m程の直線道路が必要なため、那須高原へドライブを兼ね採集に出かけた車は実験車のルノー、マスター、パブリカ、ダットサンの4台。宇都宮を過ぎると道路はすいており軽快なドライブを楽しめる。『ヘルメットをかぶつて100キロで飛ばしたら、ダンブがよけてくれた』と喜ぶ者がいた。名前は交通違反につき伏せておく、とにかく全車無事、那須高原に到着。さつそくキャンプ場を見つけて、テントを張つたが生憎、雨が降り出した。しかし予定通り夕食後、テントの中で2本のローソクを立て、明日の昼めしを賭けて麻雀を始めた。

翌朝、寒さで目が覚めた。まだ小雨が降っている。テントは倒れ、下はビショビショ。車の中で寝た方がよつほど気がきいていた。さつそく焚火をして暖たまり即席スープで朝飯代り。車のこまないうちにガス採集に取り掛つた。長い坂を登つたり下つたりすること20回ばかり。これで予定の採集は全て完了。テントを畳んで猪苗代から五色沼まで足を延ばした。昨日に懲りたので、今夜は旅館に泊まることに全員異議なく決定。やはり旅館の方がノンビリできる。又、雨が降り出した。

東北地方の国道を一步出るとデコボコ道ばかり。小石でもはねたのか、マスターのラジエターに穴が開いて水が漏り出した。山の中とて応急手当以外に処置なし。ベンチで水路をつぶしてみたがダメ。色々頭をひねつてチューインガムをくつ付けたり、ローソクを溶かして付けたり、バテを塗つたりして、どうやら郡山に到着。ボンコツ屋をかけたぐつて中古品を購入。無事、学校へ帰つて来た。明日はまた朝から分析。7月25日に実験は一応終了した。

今年は初めての実験であり、採集したガスも僅かで満足なデータは得られなかつたが、もし来年も同じ実験をすることになったら我々のひ弱ではあるが貴重な経験をもとに、更に一段と充実した実験をして頂きたい。

尚、実験の結果は別にまとめる予定である。

カタログ 『日産自動車』

2年 高 中 弘 光

当社は、昭和8年12月26日に創立され、ダットサンの大量生産に着手した。

当時の資本金は1千万円であつたが、昭和37年には165億円となつている。

工場は、横浜工場、追浜工場、吉原工場があり、横浜工場では、貨物車、追浜工場では、乗用車を生産している。

では、これらの工場で自動車がどのようにして生産されるかを簡単に説明しよう。

■エンジン生産

エンジンの本体である。 シリンダーブロック、シリンダーヘッドなどの重要部品は、鋳物工場で鋳型にドロドロにとけた鋳鉄を流し込んでつくられます。 鋳物工場から送られてきたシリンダーブロックや、シリンダーヘッドなどは、自動式の新鋭専用機械トランスファーマシンによつて、3分間に1台のスピードで自動的に加工される。

■車軸・歯車類の生産

強刃性を必要とする大部分の部品は、鍛造工場では型づくられます。(コネクティングロッドやトランスミッションギヤの鍛造は2千トンプレスで巨大な力で行われる。) それからそれぞれの機械工場で加工され組立てられて行きます。 また部品の必要の強度に応じて熱処理され機械加工されるものもあります。

■フレーム・ボディーの生産

自動車の骨組ともいえるフレームとボディーは、巨大なプレス機の力(2千トン)で一瞬にしてしぼられます。 このようにしてプレスされた鉄板は、特殊治具台に固定され、スポット溶接機で精度高く組立てられ、焼付乾燥され、美しい肌に仕上げられたボディーは内張り、窓ガラス、電装品、その他いろいろなアクセサリが付けられ室内の装備が完全になされます。

このようにして出来たいろいろな部分は、総組立ラインに送られます。 総組立は、

直線に引かれた長い組立ラインの側にコントロールルールがあり、ライジに関連するあらゆる作業の進行を適確に指令し、この組立ラインはシャーシー組立から始まりエンジン架装、ボデー架装と、一連の流れ作業でおこなわれ、最後に屋内で『屋外実際に走る状態』をそのまま再現してテストしてから完成車としてラインを降りてく。

このようにすべて一貫したオートメーションによつて、自動車が作られているの見て機械の威大さ、またこの機械を作る人間の威大さが感じられました。

工 場 見 学

1 年 笑 輪

7月1日、本田技研埼玉工場の製造工程を一通り見学したが、特に強い印象は受なかつた。けれども製造工程の途中で、本田独自の初の本格的スポーツカーをつつているのをみたけれど、素晴らしくいいようである。これは今までにない数々の新機構を取り入れ、高度なメカニズムを意味する典型的な機械であろう。こういうのが我々一般の常識を破つた低価格で発売されるということが、一部の専門家に云せれば投げ売りだと非難する人もいるそうだが、私はそうは思わない。それどころかこの価格で十分採算が合うようにできているのではないかと思う。要するに、レーサーにしてみれば、その車がいづれ値下げするだろうという不安がなくなるし、それ自体大変な魅力である。こういうメーカーであるからこそ外国の有名なグランプリ・レースにレーサーを送り輝くクラス優勝をするのである。これになるまでには、並み並みならぬ努力と精進があり、日夜のたゆまぬ研究が実を結んだといえよう。そしてここ数年の間に世界の二輪車業界を我が手のものにした偉大さは、日本人として何ともいえない誇りを感じた。これというものも本田の技術のみならず日本工のレベルの高さを全世界に再認識させると同時に、速く海外にPRしてこそ、今後

工業製品を輸出する最大の目的に到達するであろう。係員の人から云われたように自動車産業は花形産業の中でもトップクラスに値し、再建日本のエース格といわれているがおおざっぱに分けて、生産、販売、それにサービスを含めた整備の三項目になるとしても、おたがいにこみいつた関係にあるのはいうまでもない。また成長過程にある産業として、今後課題せられた宿題も多く、その上、いつも国際的視野に立つてゆかねばならない性格をもっているのが自動車産業の実体である。

たとえば、量産ということとは自動車産業の根本条件であるが、その達成のためには、輸出を含めた需要の増大が図られねばならない。だから外国の例にみても今後は乗用車がやはりその伸びの主流とみられているのではなからうか。すでに二輪車、トラック、バス等は自由化され残すは乗用車だけとなつた現在、その品質、性能をさらに引き上げ、コストの低減化を計ることが重要な課題ではないかと思う。そのためには乗用車専門工場を建設し、大量生産をすることが一番の解決策のようにも見えるがそうでもないらしい。それには限度があるからだろう。自動車工業はその特質として多くの種類の原料資材を汎山使い、更に外部の関係産業や企業の協力が必要な工業であり、数千もの部品からなつていることからわかる。従つて一層高度の技術と設備、訓練された作業員、合理的経営が要求されるわけである。我が自動車部として、ただ自動車を分解、修理、運転、組立ばかりでなく、世界の自動車産業の実態について、ディスカッションしてみるのもいいのではないだろうか。

ボンコツドライブ記

2年 杉浦恒雄

結果はどうあれ前期テストは終了した。これから始まる一週間の休みを家にて店の手伝いでもすれば、父母は大変喜ぶと解っているけど、せつかくの休み、息苦しい都会の雑音を離れ何処かえ旅行でもしないと腹の虫がおさまらない、例の持病が出て

悪友、高中、今井、池上に連絡して23日喫茶店ローライで会いだがお互いにあつ
がいいこつちがよいと各々いたいことをいい合つて、結局クラブのボンコツ車「
スター」でドライブしようという事しか決まらず帰り道で偶然長谷と出会いドライブ
に誘うとすぐさまO.K. 翌24日は高中、今井、長谷、私(池上は都合により欠
け)は早朝より夕刻まで車の整備、サイドブレーキ以外はすべて完調、早速昨日に引き
出して目的地についての相談は、昨日とは打つて変わり今日は月明かりもよさそうだが
ら今日の夜中猪苗代湖へ行く事に衆議一決、池上には電話連絡することにして、23
時に八号館前に集合することに解散。

ドライブといつても、何も準備することはないありあわせの物をバッグに押し込んで
父に「2,3日旅行へ行つて来ます」と云つて家を飛び出す。八号館前に行く
と、すでに池上、高中、両君が待つて居た、数分後に、今井、長谷君がやつて来たので、
早速新品のよそ行きスタイルをうす暗い街燈の下でゴジキスタイルに着がえたが、こ
んな場面をポリ公にでも見つかつたら職務質問を受けるのは必須である。幸か不幸
か風呂帰りの若夫婦がそばを不信そうに通つただけである。用意万端整のい、いよ
いよボンコツ車に乗つて八号館前を23時20分出発。「おぎやあ」と生まれてから
20年間たゞひたすらに都内の道を歩いて来たけれど、いやはや昼間とはまるで勝
手が違ひ上野まではなんなく来たが、さてそれから東西南北どちらがどつちやら、
おまわりさんに道を聞けば、国道の4号線と6号線を間違える始末、かれこれ20分
位いあちこちうろついてやつと4号線へ出てホッと一息、これからは草加、春日部、
小山、宇都宮と、道幅の広い完全舗装の4号線一本の為すごとくごきげん。マスター
の荷物置き所にクッションを置き、その上に毛布寝袋を引いて丁度一人眠れる様に
座敷をこしらえ、その上に横たわつて快適な夜のドライブを楽しみ心地好い振動と、
今までの疲れの為か、うとうとしかけたとたん、凸凹道を走つている様な強振動が
起こり、道路工事でもしているのかなと考えていると、前で高中、池上の、「どうも
パンクラしい」と云う話し声と共に急停車。時計を見ると2時半、出発してから3
時間位いとすれば古河市あたりか、外へ出ると、皆眠りそうな眼を、ぎらぎらと光らせ

て、一様に立小便、落付いた所で、作業服を着たのはよいが、懐中電燈を持つて来るのを忘れ、この真夜中いかにしたものかと、皆ぶつぶつと車に対して八つ当たりをしていると、さつきから座敷の中でごそごそしていた今井が、カンデラを下げて出て来た。まさか興味本位に部屋から持つて来たのが、こんな時に役に立とうとは、カンデラ様々である、だが一難去つてまた一難、バンク車をはづして、ジャキで車を持ち上げ、スベアタイヤを取り出したまではよかつたが、そのスベアタイヤがなんとしても肝心な場所に入らない。「3人寄れば文珠の知恵」と、金言にもあるが5人の将来有望な工学生が額を集めて相談してる間に、ローソクの長さは、時間と共に正比例して短かくなつて行く、そろそろ各々に不安の影が、表われ始めた時、池上が、何げなくタイヤをこすりすればどうかと、やつてみると、あたかも車が待つていました、とばかりにふんわりはまつてしまつた。一瞬にして、さつきの不安顔とは正反對の、ニヤニヤした顔と、顔、さあ出発だ。夜のドライブは、昼間と違い制限速度で走つてゐるのは、皆無である。我々もせめて60 kmは出したいと、思いきりアクセルを踏んでも、そこはボンコツの悲しさ、55 kmを過ぎると、いまにもエンジンが、空中分解しそうな異様な音響を発するので、しかたなく低速運転。たゞ追い抜かれるのみである。宇都宮を過ぎると、夜もほのぼのと明けて、早起きの農夫の姿も、見つけられ、窓を開けると冷い風が、さあつと顔に吹きつける。何度か渡る河の水も、墨汁の様にそまつて、悪臭を放つ東京の河とは違つて、澄んでいる。矢板、黒磯と進んで来ると、腹の虫が鳴つてきたので、川原に下りて朝食をバクついた。まさかこの場所にエツチラオツチラ苦勞して引き返してくるとは、夢にも思わないで、7時半出発。白河を過ぎる頃より小雨が、ばらついて来て、これからの旅を多難に思わせたが、我々は一向おかまいなしに、運転手と助手を残して、大イビキ、郡山より国道4号線を左に折れて、安積街道に入るが、車の数はぐんと減つた代わりに、道は凸凹のジャリ道。座敷に横になつていても、眠るどころか宙に体が浮かぬようにするのに一苦勞。やつとのことで、猪苗代湖に着いたが、降りて見物する元気もなく、車を走らせる。

会津若松を、また左に折れて、国道121号線に出たが、国道とは名ばかりで、さつきの安積街道より道路が悪い。しかし小谷、芦、枚温泉を過ぎて大川ラインにくると、今までの不快が、一変に吹っ飛んでしまうほどの絶景につく絶景である。大川ラインを後にして、山王峰、50里湖を過ぎると、だいぶ日も傾いてきたので、川治温泉に宿泊を決めた。

今頃は、温泉旅館も共定料金を作つて最低税込み千円と番頭さんが、言葉巧みに話しかけてきたのを、逆に口説き落して、800円に負けさせたのはよいが、宿は、町とはだいぶ離れた山の上であり、その上、湯温はぬるいときて皆不平さんたん。しかしたながら、湯に入り腹も満腹になると、次に来るのは温泉町の社会見学であるが、今までの疲れにもめげず満場一致で可決。早速ドテラの杓を正してわがポンコツ車に乗り意気揚揚と町へくり出したが、何処を捜しても××劇場は見あたらず、がっかりして帰ろうかと相談していると、15の目を有していると自他共に認めている高中生がそれと思われる看板を発見、最終行して近づいてみると、「〇〇ショウ楽団つき電〇〇・××」どうも〇〇・××に電話すると、こちらの座敷に来て〇〇ショウをするらしい、それ程我々は好き物でも、厚かましくもないので、みれんはあつたが宿に戻り世間一般諸々の話しをしているうちに、長谷がいびき声を発しそれにつられて皆いつのまにか眠つてしまつた。

翌26日は日光、中禅寺、湯ノ湖を見て、金精峠をへて帰途につく予定であるが、唯一の不安はこのポンコツが難所为名高いイロハ坂を登れるかどうかである。イロハ坂の手前の給油所でオイル1ℓを入れラジエーターの水全部とりかえて、万全を期して有料道路の入口にさしかかると、そこの投入あたかも、「そのポンコツでこのイロハ坂が登れますか、」といつたような不審そうな目つきで、我々を見ている。池上君憤然として料金を払い、いざ発進と思つたらエンスト……。

今年の夏友達と観光バスにてこの難所を通つた時には、名ガイドでもつて廻りの風景を心ゆくまで味わつたものだが、今回はそれどころではない。第一途中で停止でもしたらサイドブレーキが甘いしどうなることやら……。

2つ3つと7つ目ごろまでの曲がり角は順調にきたが、12と来るとこのボンコツ野郎、「いやだいやだ」、とだだをこねて我々に甘えて来た。温度計も85度を指していたので、やむなく休憩することにした。池上から長谷に運転手が変わった為か、あるいは休んだ為か、このボンコツ野郎さつきとはみちがえる様に生氣を取り戻し、セカンドでもバリバリ坂道を登って行く。よせばいいのに長谷調子にのつてトップに切りかえたとたんに、異様な爆音がなくなり、「いやだいやだ」、と我々に又甘えて来た。どうにかこうにかして中禅寺にたどり着いた時は、さすがに皆ほつとした顔である。人間安心すると、今まで忘れていたものが、ふと頭に浮かぶものである。高中もその例に漏れず、「あつ！ いけねえ、時計何処かに忘れてきちゃつた。誰れか知らないか？」皆知らないという。彼、一生懸命に過去の気憶を振返っていたが、「そうだ、昨日〇〇で朝食した時、河原で顔を洗う為にあの右の下に置いたつけ」。いまさら引返すわけにもいかず、湖畔で豪華な中食後、お手伝さんに全精時の道路状況を聞くと工事中で通れないという返事。

龍頭の滝を経て湯元へ行く途中の戦場が原は、何時来てもすばらしい。東京では頭の真上のほんの一部が色あせた青味を帯びている空も、ここでは青そのものである。湯元へ入ると、紅葉になりつつ木々の葉が、静寂な湖水の表面に映っている景色はまた言葉で表現出来ない美しさである。この景色をじつと見つめている時、好きな女性の笑顔でも思い出すならいざしらず、よりによつて振り八巻で試験勉強している先輩の顔が浮かんできたのは皮肉なことである。

再び日光に戻り時計を捜しに行くことにしたら、しょんぼりしていた高中君すぐさま元氣を取り戻したが、例の河原に来てがっかり昨日の雨で水量が増えて流されてしまつたらしい。いくら特製の座敷を作つたからといつて、ボンコツの悲しさ、横になつても熟睡出来ず、長谷を除いて皆真赤にした目をとうんと開いている。実際長谷運転以外はよく眠る。旅行しに来たのか、眠りに来たのかわからない。

水戸は県庁だけあり、東京とあまり変らない。石岡、土浦を過ぎると、道路の両側に梨の物売りがずらりと並んで秋の味覚を売っている。そういえば茨城は梨の特産

地だ。腹も適度にすいていたので店の前へ車を止めた。もちろん可愛い娘ちゃん
の居る店である。山本富士子までとはいかぬが和服の似合、うなじの美しい女
である。わざわざ御身から皮をむいてくれ、100円で8つのところを10にして
くれた。常にこういう場合は味以上の味が出るものである。高中この味が忘れ
れなくて、過日再び愛車キャロルに乗つて土浦へドライブに行つたが、彼女いなか
たそうである。走行距離900km使用ガソリン107ℓのわがボンコッドライブ
も柏、松戸を通りあと数分にして学校。どうぞ故障・事故共にありませぬようにナ
ムアマダブツ……………。

完

アルバイト「ペレル磨き」

1年 山 野 隆 男

僕は第1回目のアルバイトに参加したものであるが、その事について感想を書きたい
と思う。

品川駅集合7時。せつかくの日曜をバイト、それも無酬のバイトでつぶすのは、
もつたいない気がした。

現場に着き、服装を整え、先輩の誰かに、「明大自技研の名を恥ずかしめないよう
という訓辞を聞いた後、作業にとりかゝつたのは9時頃だつた。車が広場一杯に置
かれていたが、どの車にも、これが新車かと思われるほどにひどくさびが出ていた。
いろいろな型の車があつて、磨いている内に型も名前もあまり知らない僕にも、ちよ
つとはわかつてきた。さびは、充分力を入れないとなかなか落ちない。一面にさ
びの出たホイールキャップ等を、びかびかに磨き上げた時は気持ちがいい。一方、
せつかく磨いたのにX印をされると頭にくる。後で聞くと、これはその部分を取り
かえる印で、もう一度、メッキをやり直すらしかつた。

僕らの班に割当ての3台の車を磨いた後、洗車の方にまわつた。

朝が早かつたせいもあつたが、午後5時までのこの作業で、大変疲れた。が、金をもうけるのに疲れるのは当然。僕には直接金を払うより、この方がましだつた。

さて、この企画は大変によかつたと思う。1日の作業では充分に観察できなかつたが、もう1、2度やれば、内部構造も見れ、いろんな未知の車の特徴を覚えて、自動車に一層なじめる。又その収入によつて部の車の数を増やせるので、大いに意義がある。暇な人も相当いるので、これからも色々な仕事を受けとつて、このバイトを、クラブの重要な活動の一つに加えたいと思つた。

「 陸 送 」

1年 須 山 岳 郎

僕は夏休み中に陸送といわれる仕事を、アルバイトとして行つた。知つていると思ふが、陸送という仕事は、自動車会社で出来た車を販売店に運ぶ事である。そして僕のやつていた仕事はその運転手であつた。僕の働いていたのは、トヨタ陸送の下請の網島陸送という会社である。そして運ぶ車はパブリカが専門であつた。

会社は、横浜市港北区の網島という町の近所にあるトヨペット車輛センター内にあつた。会社の仕事は横浜の会社より、関東・東北・北陸の各地にあるパブリカの販売店へ車を運ぶことだつた。しかし、僕達アルバイト学生は遠距離を走ることはあまりなくて、東京・横浜・川崎の各販売店へ運ぶ事が大半であつた。僕達は横浜を基地としてそこから関東・東北・北陸の各地方へ車を運ぶわけであるが、そこまで車をどの様にして持つて行くかという、(パブリカの場合)トヨタより大型トラック又は、大型トレーラーに5~7台の車を横んで持つて行くことであつた。そして横浜からは、僕達が会社で車をもらい、指定された各地の販売店に届けた。この仕事は行きは車を運転して行くので面白いが、帰りが電車かバスなので非常に退屈だつた。

給料は、僕の会社の場合、すべて歩合給で1台運んで幾らというふうに計算されてい

た。東京都内で500円、横浜・川崎市内で250円で、速くなると段々高くなるわけである。都内へ一回運んで帰ってくるのに2〜3時間位かかる。そして日に3〜5台程度を選ぶので、1日平均900円〜1500円位になつたが、帰りの交通費は自分持ちだったので、1日平均1000円位というのがアルバイト学生の通の収入だつた。日によつて選ぶ車の量に非常に大きな波があり、1日に1〜2台位しか仕事が無い時もあり、又、反対に非常に忙がしい時は5〜7台位運び、家に居る時間が12時近いということもあつた。このように陸送という仕事は時間が不規則である。しかし、仕事が車の運転だけなので、肉体的にはたいして疲れなかつたが、神経は非常に疲れた。忙しい時は家に帰つて来ると、何をする気力も無くなつて寝るだけという状態であつた。以上述べた事が、僕のやつていた陸送という仕事であらましである。

永遠の恋人



3年 栗原 猛

交響曲第三番変ホ長調作品55、同第五番作品67と言へば、誰しもが、あの曲かと思うに違いない。だが、この間に、挟まれる交響曲第四番作品60と書したのは、一般に知られていないし、又、人気もあまりない様である。が、この曲にても前者、後者に負けない位の良さがあり、内容がある。絶望の悲痛の頂点である、あの有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」を書き、「自分は、今までの作品に満足する事が出来ない。これからは、新しい自分の道を」と宣言したルードウィヒ・ヴァン・ベートーヴェンが、まず作り上げたのが交響曲第三番「エロイカ」なのである。今までの古典様式を打ち破り、彼特自の作法で、想の英雄プロメテウスを頭に置き、実際の英雄ナポレオンを純粹に崇拝して作り上げたのがこの曲なのである。当時、一般の人は、受け付けなかつたのであるが、後

身非常に満足し、意気込んで、書き始めた交響曲が現在の第五番ハ短調なのである。従つてもし順調に書き上つていたらあの有名な第五も、交響曲第四番ハ短調と呼ばれねばならないのである。

「人間は工夫をし、天はそれを処分する」と言う勝があるが、BEETHOVEN の場合にも、これが適用する事が出来る。

即ち、彼は恋をしたのだ。友人のフランツ・フォン・ブルンスウィックの妹テレゼと、彼は結婚こそしなかつたが、生涯に数多くの恋愛事件に関係した。だが、テレサ以前に婚約する程深入りする事は、なかつた。彼の死後、彼の秘密を深く隠した一つの手紙が発見された。

「我が天使よ、我が総て、私自身であるものよ……あゝ、私が何処へ行こうとも貴女は私の側にいる。(中略) 私は貴女と一緒にのみ生きて行ける。貴女なしには、暮せぬ。決して他の女にはひきつけられないだろう。(略) 君よ — 君よ — 我が命 — 私の総てよ — さようなら! おお! 我を愛し続け給へ。貴女の愛するLの心を決して忘れ給ふな。永遠に貴女の — 永遠に私の — 永遠に私達の」、これが永遠の女性に宛てた手紙の内容である。宛名はない。永遠の恋人とは、今だ謎である。ある人は、彼が「月光ソナタ」を捧げたジュリエッタ・ギツツイアルデイとも言い、テレゼ・フォン・マルファツテイと云い、又は、アマリー・ゼーバルト等と言う。だが、不滅の恋人、永遠の女性、この宛名なき手紙の受け取り人と、テレゼ・フォン・ブルンスウィックに他ならない。彼の心を占領し、心から「我が天使よ」と呼びかける女性が、彼女以外に有り得ないのである。

何故にか? との疑問には、交響曲第四番変ロ長調が教えてくれる。後に、シューマンが、第四番が第三と第五の間に存在するのを評して、「2人の北国の巨人の間に立てるすらりとしたギリシヤの乙女」と横している様にこの曲は、実に清潔である。この作品全体を通じて、誘致的なものがあり、この第四よりも魂を奪う様な一貫した物はないのだ。各楽章が美しい彫刻の手足、顔、姿の様であり、各部分が、熱情と創意とが充滿し、総てが簡潔と優雅と美を持つている。そこには、ユ

—モア、詩、パトス、絶えざる抑制しがたい明るさと快活さが、永遠にふき上げていくのだ。彼も男である。美しき若き女性と、(美しいか否かは私には判らないが写真で見ると相当美しい様に感ずるが)恋をしたのである。心は弾むし、快活になるし、感激的な感情も高まつて来る。人間の苦悩と戦いを感じさせる様な第五なんか、とう程、作つていられないのだ。この曲を第二楽章で放り出して、すぐ第四に着手、完成したのだ。この曲を作っている彼の心は幸福で一ぱいであつた。この曲は勝利を歌つた凱歌であり、彼の喜びはこの第四番の中にあるのだ。「恋の季節への前奏曲」と言われる第一楽章のあのアダージョ、ドビシーの「牧神の午後への前奏曲」の様な官能的なものではないが、確かに恋が存在するのである。そのあとは恋の躍動である。この様な幸福な施律を拂き出させた2人の恋も、身分の差、経済的な面から破局へと向う。そのあとに、外的困難や、苦悩が起り、不健康と不治の耳病が増加し、孤独と苦悩との戦いに戒つた。その後の作品には、美、力強さ、崇高さは存在するが、快活は無いのだ。第五は凱歌をあげ、第六は牧歌的であり、第七、八はダイナミクスとユーモラスである。しかし、第四の様に、無邪気な喜びを他の曲から見い出すことは出来ないのである。

この様に美しいメロディーを盪感せしめ、彼を陽気に快活に元気にし、田舎生れの無骨の作曲家に、洗練した身装を自分からつけさせ、進んで社交会に顔を出させる様に振舞わせたのは誰でもない、テレゼ・フォン・ブルンスウィックに他ならない。彼女を永遠の恋人と呼ぶべきであらう。

自技研の諸兄よ！もし諸君が、自分は恋をしているのではないかと思つたとき、交響曲第四を聞くことを勧める。そしてそのとき、オーケストラの弦の音と同じ様に、心の中で自分の弦が、金管が、木管が、打楽器が鳴り出したら、君はその時恋をしているのだ。その時の相手の女性が、(失礼、今の自技研には女性がいるのを忘れていた。女性にとつては、男性が)永遠の恋人であるかも知れない。そして、その恋人を妻としたものは、シラーの詩を第九に合わせて高らかに歌おうではないか。..

Wer ein holdes weib errungen

Mische seinen dubel ein /

ドライブ・コース

3年 高 桑 勝

一部の人を除いて、普段勉学に忙しい諸君は、泊りがけや、丸1日のドライブで次の日の勉学等に、さしつかえるので、半日でドライブ気分を味えるコースを計画してみたが、人数、その他は諸君におまかせする。全行程は、170kmで随分のんびりとした、いわゆるムード派のコースとなつた。

コース、東京 - 横浜 - 横須賀 - 観音崎、久里浜 - 剣が崎 - 城が島 - 葉山 - 逗子 - 田浦 - 横浜 - 東京。

午前中は、車の手入れ等をする事として、午前11時早めの昼食をとつて、御茶の水駅前集合とする。車は遅くとも10分前に到着して、同乗者を待つべきである。これは、車が遅れて行くと、同乗者が不安感を持つので、それくらいの配慮は、ドライバーには必要と思われる。11時に御茶の水を出発すれば、休日であるので、五反田まで30分で走ることにはやさしい。又、第二京浜もこの時間はすいているので、初心者でも気持ちよく走る事が出来る。五反田から横浜までは約25キロ余りで、15分で走れる。東神奈川のシエルスタンドを挟んでY字路を左へ、青木橋へ向う。青木橋を左折して直ぐのT字路を右折して、横浜駅前を通つて、ガードを通つて、左折して、桜木町へ。桜木町からは杉田行き の市電に沿つて、杉田より金沢、横須賀へ、この辺までは城が島方面へ行く事があつて、所々で車はつながることがあるかもしれないが、大部分の車は、横須賀のロータリーで右折して城が島方面へ行つてしまふが、ここを右折せずに真進して、海岸づたいに観音崎へ、1km程砂利道があるが、こゝは熱帯樹の中を走つてゐるので、ドライブに來た感じがして路面も気にはなるまい。砂利道が終ると、観音崎の入口まで舗装路が続く。観音崎には、駐車場が完備して

いるので、ここで車を止めて足を伸ばす。ここまで横浜より40キロ余り、70分
で走れる。ここはバス連絡しかないので、すいているし、崎を一周する道がなか
か変化があつて、ぶらぶら歩いても30分位で、気分転換には良いと思う。観音
からバス路線を浦賀から久里浜へ、ここから、津久井、岩井口までは新しく舗装さ
れた海岸道路を走る。この道路はまだ人に知られていないせいか、すれ違ひ車も少
家族連の自家用車が所々にパークしている程度である。岩井口からはさらに海岸
沿つてバス一台通るだけの悪路に行くことにする。路面は悪いが、風景は良く、左
手に海を見ながら登りにかかり、登りきつた所に青い海をバックに、野原を前庭に
た白い剣が崎燈台を見る事が出来る。さらに海岸に沿つて進むと、ひっそりとし
小さな入江を通り、西瓜畑に致る。この辺までくると、下に三浦市、左手に城が
を見る事が出来る。さらに進むと城が島大橋に致る。観音崎よりここまで20
キロ余り。路面が悪いのと、道巾が狭いという事より1時間近くかゝるであろう。
大橋の通行料金は他の場所と比べると高すぎるが、最近、料金所の係員がバイト学
から、制服の女子に変つたのはそれをごまかすためかもしれない。城が島は、橋
渡つてすぐ右折して、新設の公園の方へ行くと、見晴し台より島の東側を見る事が
出来る。東側は西側より開けていないし、俗まさがなく景色がよい。ここから葉
・逗子への道は海岸線でも路面もよく、夕刻は特に素晴らしいので、日没時間に合わせ
走るとよいので、島で時間調整をするとよい。夕日に輝く海を左手に見ながら、
海岸道路を走つていけば、同乗者達の気分は最高調となるのであろう。まもなく逗
に致り、Y字路を右折、駅前に出て左折するとがらりと変つて今度は、軽い時越え
なり、峠を越えると田浦に致り、左折して往路に致る。7時半頃まで第二京浜は
むるので、市内で時間をつぶすとよい。伊勢崎町や、関内には横浜らしい店が多く
るし、又、駅の西へ行けば新宿ぐらゐの賑やかさで何んでもあるから、この辺の店
食事をするなり、お茶を飲むなりして、ドライブの反省等の話でもしていれば、す
時間がたつてしまふであろう。

8時頃になれば道もすいてくるし、輝く夜の第二京浜は、街路燈の光が続いて、屋

りもぐつとムードがある。8時半頃東京。以上、なをこのコースは仮定であつて実走したわけではないので、時間、距離とも正確ではなく、もし、このコースを行く人がいればもう少し詳しく調べて欲しい。

東 北 旅 行

2 年 市 川 淳 郎

前期試験の後に一週間休みがあつたので、どこかに旅行したいと思つていた矢先に、同じ自技研の大庭、杉野に東北に行かないかと誘われたので、一も二もなく同意し、行を共にすることになつた。何分にも学生のこと、金がないので、宿はユースホテルや夜行列車の中であつた。出発の前日にホテルの会員になり、22日の夜出発した。

仙台に朝到着。最初の予定地山寺に行つた。山寺は、正しくは宝珠山立石寺と称される寺で、元祿2年芭蕉が、「閑さや……」の句を作つた所である。現在では昔の静けさはなく、胎内堂とか性相院とかの変な名前の御堂が、記憶にある程度のつまらない所だつた。次に今井編集長の推奨する作並に行つたが同様。

翌日は快晴に恵まれ、青葉城、松島を回つた。青葉城は松などの常緑樹の緑が美しく広い公園のような感じで、城の面影はない。

昼すぎ松島に遊覧船で向つた。松島湾は、湾内に浮ぶ島々の景色は、「優」ではないが、「良」ぐらいだろう。予定にはなかつたが、時間が余つたので、「大漁唄い込み」にある瑞巖寺に行つた。一休禪師に関係のある寺で国宝。

21時頃仙台から青森に向つた。夜行列車の中は寒く風邪をひいてしまつた。

空気の冷たい、モヤのかかつた青森駅に5時着。青函連絡船を見て、北海道に渡りたいとも思つたが断念。駅前からバスで奥入瀬の石ヶ戸まで行つた。途中の八甲田の山々の紅葉は見事だつた。女盗賊の鬼神のお松で有名な石ヶ戸から十和田湖

まで8キロ。無数にある滝を見ながら悪路を歩いた。霧のような細かい雨の降る十和田湖の静かな湖水を遊覧船で一周して、宿の博物館ホテルに直行。

翌朝、高村光太郎作の乙女の像を見てから秋田に行つた。

秋田の名物は何と言つても、秋田おぼこであります。某新聞紙上に掲載された美人研究家の吉田博士の説によれば、鼻筋が通つて、色白で、澄んだ瞳を持ち、八頭身型で、人情味豊かであり秋田の女性は日本一である。とのこと。このことは我々一行も市内を歩いてみて確認しました。

秋田から男鹿半島の船川まで汽車で30分。そこから門前まで歩くつもりだったが、一時間半以上歩いていたが、空腹と疲労を感じたけれど、田舎のことで民家も少なく、極く小さなパン店をようやく見つけて入つたところ、タダでお茶、漬物、特産のカニまで食べさせてもらい、東北人の親切さをしみじみと味わつた。夜の8時にやつと目指すホテルに到着。途中強い雨に降られ、治りかけていた風邪がよけいにひどくなつた。

27日、船川駅前から遊覧バスで寒風山、八望台、入道岬を回つた。寒風山は若草山を高くしたような山で、小さいわりに傾斜が急なので登るのにかなり疲れたが、見晴のよい所で東に八郎潟、西、南、北に日本海の見える景色は、かなりよかつた。入道岬は男鹿半島の先端で、点在する奇岩巨石に、折からの強い風にあおられた荒波が怒濤逆捲く姿は豪快で、最も印象深かつた。

そこから秋田に戻り、大館を通つて翌朝福島に着いた。福島からバスで浄土平。

浄土平では海拔千数百米の東小富士にわずか10分足らずで登つた。頂上からは、昔は火山であつたという面影をとどめる小さな煙を吐く一切経山や、紅葉した木々に被われた山々が見渡らせる。非常に景色のよい所だつた。夜ホテルに泊つた。翌日は五色沼を見ながら磐梯山にまで行き登山。五色沼とは300もの沼を総称して言うのであつて、その水の色は、青、緑、黄緑、褐色等で、夕暮れ時に、鏡のような水面に山々が映つて、白鳥が遊んでいる様子は他では見られない素晴らしい光景であつた。

磐梯山は木々が八分程度の紅葉できれいであつた。登山中に靴が小さかつた為、
豆が幾つか出来て下山中につぶれ、痛くて、他の2人に登りはどうやら一緒に行けた
が、下りの時は、とてもだめで藪で2人を30分程待たせることになつてしまつた。
夕方、ホテルに帰りついてから足を見ると、これでよく歩いたと思うような具合だ
つた。

翌朝は遅くまで起床せずに、鋭気を養つて、最後の見学地、猪苗代湖に向つた。
この日は残念ながら雨が降り出したので、少し権原湖を見てから、ジュークボックス
で歌を聞いたりスマートボールをしたりして、予定より10時間早く猪苗代駅を発つ
て、東京に夜7時半に帰つてきた。総経費約8000円。期間は9日 この9日
の期間で特に感じたことは、東北人の正直なこと、親切なことで、旅行中の幾つかの
経験により認識させられた。

東北とは、行つて損のない地方です。まだ行つていない人は、是非行つて見るこ
とを、奨めます。

『自動車雑感』

2年 上村 昇

自動車と言へば、エンジンが第一である事は言ひまでもない事である。つまり、
機械工学の分野である。そして自動車工学という一つの専門分野を形成している。
自動車が動くエネルギーを形成・伝達しているものは大部分円形の鉄の固まりである。
自動車は、人が自由に操作する事が出来るようにするための驚嘆するような、分かつ
たようで、分からないような複雑な機構をもっている。たまたま自動車において見
落されがちなものがある(と言つても目に見えるものではないが)。それは電気であ
る。… 自動車動力の中核におけるプラグの動き、セルモーター、夜間走行に必
要とするライト、車の状態を示す計器類等、割合動きはハズな方である。… 電気

以外の自動車の機構を一つ不足させても自動車が動くか、走るかは問題となるが、もしも電気というものが自動車一般のガソリン機関（ディーゼル機関を除く）においてなかつたとしたならば、どうなるであろうか？……

「動力が得られない」、これが答えである。これからも分かるように電気が自動車に於いて果た役割の比重は大なるものがある。自動車の電気装備においても、々々、難しいものがある。例えば、フラッシュャーを例にとろう。フラッシュャーの構造も種々あるが、その一つにニクロム線を利用するものがある。その構造は機械思考のみでは解決しえないのである……。

自動車のシステムを研究をする時、機械本位に傾よらず、電気をも採り入れて考へたら面白いのではないかと感じる次第である。

「事故における注意」

1 年 辻 野 進

日常、我々が車を運転していて相手にぶつけたり、ぶつけられたりすることはあることでありますから、もし、事故が起つた場合についてどんなことをしたらよいか、いろいろアドバイスいたしましょう。これから述べることは非常に役に立つことです。

まず、相手にぶつけられた場合で両者ともケガをしていないときは、他の交通の邪魔にならないように車を道路の端におき、もよりの交番か警察に届けるのが一番良く、警察で事故の原因をよく話し、相手が悪いことを認めてもらつて、示談書を作つてらうのですが、たいして大きな事故でなく、急ぎの用のない時は、事故の起つた近所か、自分の知つている修理屋へつれて行つて、見積を取つてもらつて、その場で、金をもらうことですが、なかなか金を持つている人はいませんから、相手の免許書と自動車の車検をもらつて、車の種類、番号等や、免許証を写し取り相手の勤務先、電

番号を書き取る。車が相手の物であつたら車検をはずかつておくのもよい。又「いつさい修理いたします。」という保証書を書いてもらい印を押してもらうことを忘れてはいけない。この場合、後になつて相手が金を払わなかつたらどうしようもないので、このところを厳重にやります。よく警察に立ち合つてもらつて、示談書を書いて金も払わない人がいるそうです。どちらかがケガをした場合は、絶対警察に届けること。

次に相手にぶつけた場合は、法規をうまく使つて、自分の方が悪くないように持ち込むことです。どう見ても自分が悪いときは、自分の住所を教えますが、電話はないことにします。そして、相手の住所、勤務先、電話番号を聞き、相手から連絡があつてから修理代を払いようにします。

相手の生活が豊かでないような人のときは、警察に立ち合つてもらふこと。車の修理期間中、仕事が出来ないから、その期間中の生活費等を取られる場合がありますから、警察でいつさいの保証を決めてしまふこと。後で何か言つてきても関係のないことです。又タクシーや、バスにぶつけた場合は、会社側から示談屋がきます。そして修理は、会社の方でするので安くやれるので、大きな会社の場合は、相手にまかせて大丈夫だと思います。以上が、事故に会つた場合の注意です。これは経験に基づいて書いたものであります。

事故を起さないためには、規則を守ることであります。

学 生 哲 学

3年 福 水 大 陸

大学とは勉学の場であると共に人間形成の場であると思う。自分達学生にありがちな社会の表だけを見て実社会に出た時の変化に感わされ、失望することのないよう人間を形成しなければならない。この為には自分の適当な判断力をもつてし、なる

べく多くを知る事である。悪い事も、良い事も、醜い事も、奇麗なことも、街を歩いて知ることも、机に向かつて知ることも、あらゆる事をひるまず知ることである。万一、この時の判断力が乏しくて、失敗したとしても良い。失敗すれば必ず判断力も成長するものだから。

限られた学生々活では全部を知るのとは不可能であるが、なるべく多く、浅くとも幅の広い人間になりたいものだ。又、浅く広い人間であつても一人前の人間ではない。何か一つ、この広く知つた事柄で自分に一番通じた項目を深く突込めばよいのだ。我々、工学部の人間は同じものを選んだと思う。技術屋と言う項目だ。少なくとも自分はこの考えで大いに大人になろうとしている。まだまだ満足までは遠いから、近づくことと懸命になつている。

このために、休暇にはアルバイト等を大いに社会人の真似事を試みるのもよし、本を読むのも結構。たとえY本であつても。

ただ、何も考えないでボンヤリと時を過ごすのは最も馬鹿らしい。

『 温 故 知 新 』

3 年 小 林 知

「お前は大きくなつたら、何になりたい」。 「自動車の運転手」。 こんなことを聞かれたときには、よくこう考えたものだ。子供の憧れは、何かを動かす、ということであらう。

トラックで速くに行く事が、とても嬉しかつた。途中で燃料が燃えつき、もくもくと煙を出しながら、本をもやしていたとき、又、手廻しの送風器の妙な音など、今でも思い出すね。お前は、大部老いぼれている、と思つてるな。だが、俺は大いに遊び、大いに学び、大いに恋もしたい。こう願う、若さに満ちあふれた若干22才のハンサムボーイである。

毎年毎年色々な型の車が売られて出されているが、自分達にとっては、話題の種にしか過ぎない。直接関係あるのは、作られた当時は新車であつた車である。免許を取つて、先ず欲しいのが自動車である。そこで友人と手に入れたのが、57年型コロナである。前進三段、SVエンジン800CC、の通り出足の悪さは抜群、ただボデーのがんじょうな車は、安心して乗つていられた。箱根のドライブのときなど、東京へ無事つくか心配であつた。上り坂になると、すぐエンジンは頭にきて、蒸気を吹き出す。上り坂では温度計といつものにらめつこであつた。この世話のやけた車も、半年程で、4回目位の嫁入先が見つかつたので、ほとんど身受けした値で譲つてしまつた。今度も3人で二度目にもらつたのが、57年型ヒルマンミンクスである。これが大いに我々の手にはおえないしたたかものである。バッテリーはいつも空腹で、毎日一度は充電しなければ、セルは回らない。去年の暮から今年の正月と、大いに手こずらされた。コロナに比して、たしかに加速もいい。記録した最高時速は120キロ。ただ、時々ブレーキのききが悪くなるくせがあるので、いつも緊張の連続である。この車で一度こんなことがあつた。バックギヤが入らなくなつたことがあつた。ある人を送つて石神井公園の方へ行つたとき、右折するところを通り過ぎてしまつた。Uターン出来るほどの道巾はない。勿論、バック出来ないから切返しは無理である。やがて道が坂道になつた。しめた登り口には小路もあつた。車のこないことを見定めて、坂の途中から随處で小路にバック、やつとのことで戻ることが出来た。その帰り今度は、サードからギヤが抜けなくなり、家までサードで帰つた。ボンコツ車でなければ、味わえないことだ。何か不安でありながら、又楽しいのがボンコツ車を運転することだ。古いものは、何かしら知識を与えてくれる。

昔の人は言いました。「古きを訪ねて、新しきを知る」。これが自技研部のモットーである、と信ずる。諸君、自技研部員であることを誇りと思え。

「 題 無 」

4 年 柴 野 三 朗

例年の新聞、ブログに変わるものを出版すると原稿を渡されたので気のむくまま、
だらしない事でページを埋めてごまかす事にした。

我が自動車技術研究部は、今年で設立十周年目となり、又富塚教授も長年部長を
ていただいたが昨年でやめ、かわりに岡教授を部長として迎えた事など、今年はクラブ
としても大きな転換期となるだろう。 来年は1, 2年が生田に移転するそうだが、
このへんで先輩諸氏の研究、努力を土台として大きく飛躍することが我々、特に1,
2年への課題であろう。 別に先輩面するわけではないが、4年間も部員として過
と、こんなクラブにも愛着がわくもので、下級生にはますますハッスル(車をぶつ
る事ではない)してもらいたいものである。 幸、2年生はハッスルしているとの
又1年生も真面目に活動している様で心強い。 ここで1年生に注意しておくが、
且入部したからには最後までやり通すことである。 時には月200円も掛つてばか
らしいと思う事もあるだろうが、上級になつて初めて部に入つていて良かったと思
ものである。 今日のマスプロ大学では、学生の横のつながりはあつても縦のつながり
上級下級生への交友は皆無といつて良い。 この社交場なるものによろづを利用す
きだろう。 但し工学部が主体であるため、女性とのお付き合いは他に求めなければ
ならないが……。

実は小生も「自動車免許はすぐ取れます」、
「いつでもドライブには部の車をど
ぞ」という甘いキャッチフレーズについ心引かれて入部したものである。 入部し
みると、自動車とは名ばかり、前時代的な代物ばかりでいざ走り出せば酒に酔つた
うに、道路巾全部を使い、ひとりでに石をよけて通るものが多かつた。 しかし楽し
いものだつた。

話題を変えて、今下級生で、2, 4 cycle engine の、時に2 cycle
engine についての説明を求めるなら、的確な答をするものは少ないのではない
ここで2 cycle engine の掃気について簡単に説明しておこう。

2 cycle engine はクランクシャフト一回転で1サイクルを完了するもの
あるから、給気と排気が同時に行われることは周知の通りである。 しかしこの掃

は、4 cycleほど単純なものではなく色々複雑な要素が入ってくる。給入される新気(air deliverd)が全部cylinder内に留まるのではなく、一部は直接exhaust port(valve)にshort-circuiteし、残り(air retained)が次の燃焼に参与する。又、前のcycleでの燃焼が2が全部exhaustに排出されるのではなく、その一部がcylinder内に留まつている。よつて次の燃焼に参与するのは、三つの部分から成る。一つは新しく給入されcylinder内に留まつた新気(air retained)、一つは前cycleにおける過剰空気の一部(燃焼に参加しなかつた空気)、今一つは前cycleからの燃焼ガスの一部分(residual combustion products)である。よつて2 cycle engineの色々な測定は非常に難かしくなる。次によく用いる語を説明しておく。

$$\text{給気比 (delivery ratio)} = \frac{\text{air deliverd}}{\text{行程体積 (displacement + volume)}}$$

$$\text{掃気効率 (scavenging eff.)} = \frac{\text{air retained}}{\text{cylinder charge}}$$

$$\text{給気効率 (trapping eff.)} = \frac{\text{air retained}}{\text{air deliverd}}$$

駿台祭に寄せて

2年 木村 俊一

「大学祭について書いてくれ」と言われて、原稿用紙をわたされたものの、今、実際のところ筆をとつてみると何を書いていいのかさっぱり見当がつかず困っている。この部誌が発行されるのは駿台祭が終つてからになるらしいので今、駿台祭について

この計画している内容を書いても展示内容と、どの位まで一致できるか心配である。

先日1年生から大学祭はどんなことをするものなのかときかれた。当然クラブはそれまでの活動を学内あるいは学外に発表する唯一の機会だと誰れしも答えることと思うが今、我々のやつていることは大学祭の為に短期間で研究するという不自然な活動(?)となつているかもしれない。この点が来年に課せられた課題のように思いますが……。

2年生の研究発表は「トルクコンバータ」と、「シンクロメツシュ」であるがこの二つのテーマを取り上げた理由をすこし述べることにしよう。トルクコンバータ(トルコン)は現在の東京のように交通量の多いところでは、どうしてもギヤーチェンジが頻繁に行われるので、これに応じて運転上面倒のない車つまりチェンジ操作を必要としないトルコンの方式が多くの車に使われてきたことは周知の通りである。こういう傾向からトルコンをとり上げることとした。

トヨタから借りた模型、その他図解による諸部品の説明、その他その作用については、口頭でどんな質問にも対処し説明できる完璧な体勢にあるという心強い勉強ぶりである。

つぎにシンクロメツシュ(シンクロ)の方は、各社の宣伝文中でよく耳にし、「フルシンクロ」ということばがよく使われているが、その原理については、よく分からない人が多いように思われる。このように一般によく知られ、馴じみの多い言葉、「シンクロ」をとりあげることとした。これもトヨタ自動車から借りた模型、その他2,3のミッションを実習工場の佐藤老人にカットしてもらいその作用を説明する。その他1年生は、船外機の説明、3年生は夏休み中研究した排気ガスの問題を実験結果を基にして発表する。

又、免許の取り方の相談室があり例年にない異色の試みとなりそうである。

ここで今やつている2年生の準備状況であるが、シンクロの方は着手が一步早くトルコンには、現在大分「水をあげ」て意気揚々といつた状態らしいが、これから中半から後半にかけてのトルコンの追い込みに期待しよう。

大学祭の準備に関連して思いあたることを一つだけつけ加えて置きたい。

大学祭は、もちろんクラブ員全員の参加によつて初めて良い成果が上げられるものと信じています。全員がフルに活動することはなかなか難しいことかも知れないが、その成果にはクラブの展示そのものの成功を意味していることは勿論でしょう。

まだクラブの空気に馴れぬうちに久しぶりで部会や部室に出てきても、他の1年生などのように気軽に話もせずには帰つてしまうという人がまだ多少いるように思える。

この機会に一つの仕事を一緒にすることによつて、お互いを知り、自分からクラブの中へ溶け込んでいくことこそ、この駿台祭準備の奥にある最も大切なことのようにも思われる。

生 田 支 部

3 年 松 本 忠 雄

理科連の雄、当自動車技術研究部も先輩諸兄の努力により発足以来研学の精神に基き自動車技術を探究し、部員相互の親睦を目的とし発展を遂げ、部員数も130余名となり今年10周年目を迎えることが出来、ここに改めて先輩諸兄に感謝致します。

私も本部役員となり1年近くとなりますが、実績のない私が本部で悠然としていられますのも、前本部委員長の小倉先輩をはじめ西村先輩等の功績のおかげだと感謝しております。さて、この季刊誌を発行するに当たり本部に関する何らかの記事を書けとの仰せのため、簡単に来年度の駿河台校舎の本部と、生田校舎の生田支部とについて書きます。

学校の方針として来年度は教養過程の1、2年生は生田校舎に移る事になりましたので理科連本部と致しましても、今まであつた生田支部(農学部系)を拡張し、生田にある同好会等も吸収し、強力にして漸時本部も生田に移す方針でありますが、当面は有田連との付合関係、その他色々な面に支障をきたしますので、当分落着くまではこ

ちらに本部を置くこととなります。

生田校舎に移つてからの本部の学校側の要望と致しましては、狭い駿河台校舎で増えられなかつた。各サークル一個の部室、又当自動車部としては洗車場、自動車台が入る屋根付ガレージ等、サークル活動に必要な物は総て本田委員長を先頭に本員全員で学校側に要望しております。要望ばかり多くて、各サークルの実績がなすには、本部だけの空回りとなつてしまつて、学校側も要望を聞いてくれませんから、より一層の実績を積み重ねるよう努力してもらいたいと思います。

又、サークル活動としましても、来年度は1, 2年生が生田3, 4年生が本校と別々になるので、今年の1年生はサークルの運営、まとめ方等について普段のサークル活動を通じて勉強をしておくようお願いします。

最後に苦言を一つ。

本部内での当自動車部への風当たりが最近悪くなつてきた原因は、今までの実績又部員数の一番多いことを嵩にきて、本部員に対する態度、言葉使いが悪い。過去の実績だけを頼つていると他のサークルに追越されるぞ!

「アンケート報告」

夏休み後の部会の時、1年生によるフラグへの要望というテーマでアンケートを兼ねました所、次のような結果が現われました。即ち、一番多かつたのが自動車台数を増し、かつ自動車らしい自動車である事というのが、8件あつた。次に部員間の親睦のためのドライブ及び合同ハイキング、そして部内ソフトボール大会等があわせて17件ありました。又他に練習時間を多くする事、夏休み中も活動する事、又減らなくなつた車は出来るだけ部員で修理する、部運営のための資金かせぎとしてバイトを行う。合宿は1, 2, 3年合同でやる。研究テーマを出して研究をやりたい

女子部員を増す。又現役とOBの連絡を完全にしたい等が、クラブに対する要望であつた。それからこの半年間で気づいた事として、部会をスムーズにやるため伝達を希望する。リーダーは幹事長と連絡を密接にしたい。それから部室へ行つた時には、何かやる事を提供してもらいたい。部室の雰囲気を入生に対してもつと柔らかくしてもらいたい、等が提出された。

白紙は10件ありました。(早稲田)

次に以上に対する幹事長評は、次の通りです。

いろいろな建設的意見、どれも、もつともだと思ひ、が少し言訳をさせてもらひなら、自動車台数を増し、自動車らしい自動車である事に対しては、金が、すべてを解決してくれる問題である、と思ひ。

リクリエーションについては、部員の人数が、非常に多かつたため、思ひ通りに出来ませんでした。又、合宿に1, 2, 3年合同でやるように、と言ひことであるが、3年には、特別な研究目的があつたため、一寸、顔を出しただけであつたが、確かに、一緒にやつた方がよいと思ひ。しかし、3年だけ特別な研究をするのが、例年となつてゐるため、うまく行くかどうかわからないが、来年度にはうまくやつてもらひたい。それから、何かやる事を提供してくれと言ひことだが、ある程度は、やつてゐると思ひが、そういつも必ずあると言ひものではないし、一度位何もなかつたからと言つて、部室に出てこないよになつては困る。

次の、部室の雰囲気を柔らかくしてくれ、と言ひことだが、今年度に対して言ひ限り、すこしも厳しくしたとは思ひない。

大体以上の様なことであるが、来年度には、これらの改良出来る所は、大いに改良して、更にいつその進歩を期待します。

編 集 後 記

- ◇ エスベロにてコーヒーを飲み終えと同時に優秀なる皆様が一冊の部誌をまとめる。……………(早稲田)
- ◇ 2年生、3年生(お姉さま方)が適切な判断で、卒先して編集に当つてくれたので、我々1年生は、タダ、オンブしていれば大学祭の準備も免がれて気楽なもんだつた。……………(長 島)
- ◇ このようなものを手掛けるのは初めての試みなので、至らぬ事だらけですが、ようやくにしてこの立派な? 部誌が出来上がりました。この間、取材という名目で路上運転が大分出来たことを感謝致します。……………(川 下)
- ◇ 何にもしないで出来あがり……………。編集後記を書くずうずうしさ。……………(竹花、沼田)
- ◇ 文章はにがてなので広告取りで頑張りました。(山本健夫)
- ◇ やつと、出来上りました。……………(今 井)

明大・理科連・自技研「プラグ」第1号

発行日 昭和38年11月

発行責任者 浅賀 誠

編集員 竹花、沼田、今井、早稲田、川下、長島、山本(健)

自動車部品、用品のデパート

米欧自動車部品、用品直輸入及タイヤ販売

神田の阿部商会

ラジオ関東ハイウェイ・ニュース(12時14分)の
特売御案内品

- カーヒーター
- バッテリー
- タイヤ及タイヤチェン
- 不凍液

その他

自動車アクセサリも店内に多数取り揃えています。

本 社	東京都千代田区神田美土代町3番地 電話 丸の内代表(内) 2156番
赤坂営業所	東京都港区赤坂内町4丁目13番地 電話 赤坂(内)代表 8406~9番
新宿営業所	東京都渋谷区本町3丁目1番地 電話 東京(内)代表 3116~9番
鈴ヶ森営業所	東京都品川区大井鈴ヶ森町13番地 電話 丸の内(内) 7860~1番